

# 石巻市総合運動公園陸上競技場基本構想【概要版】

## 1 基本構想策定の背景と目的

### (1) 背景と目的

- 東日本大震災により、石巻圏域唯一の第3種公認陸上競技場が無くなり、石巻地区の大会が仙台市や利府町等の競技場を会場としなければならない状況
- 令和元年石巻市議会第2回定例会において、陸上競技場の早期建設の実現に関する請願が採択
- 陸上関係者からは第3種公認陸上競技場の建設が必要との要望が提出
- 「石巻市陸上競技場の整備を推進する議員連盟」が発足
- 令和2年度に石巻市総合運動公園陸上競技場整備等基礎調査を実施
- 地域の活性化、地域のスポーツ振興、地域の防災活動拠点としての必要性が示されるとともに、第3種公認陸上競技場の整備が求められる。

### (2) 石巻総合運動公園の位置（建設予定地）

- 北側には、野球場、フットボール場、トレーニングセンター等を設置
- 南側には、人工芝のフットボール場、天然芝の多目的グラウンド、人工芝のテニスコート等を設置
- 周辺に「石巻女川 IC」や「石巻河南 IC」があり、仙台都市圏や気仙沼・本吉圏から1時間程度でアクセス可能



## 2 基本構想の位置づけ

### (1) 各種関連計画との連携および整合性

- 石巻市総合計画のもと、「石巻市スポーツ推進計画」を上位計画とし、各種計画との連携及び整合性を踏まえ、検討を進める。

### (2) 石巻市の現状

#### ●石巻市人口

- ▶本市が令和3年度に策定した「人口ビジョン」では、令和37年（2055年）に10万人を割り込むものと予想

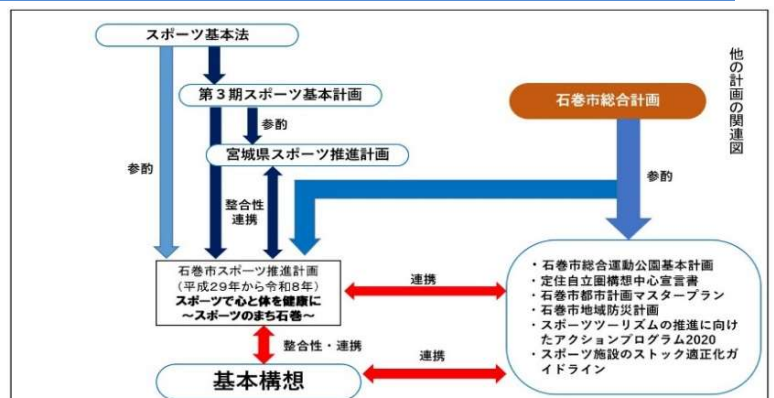
- ▶年齢別人口の構成比の推移からも少子化と高齢化の進行がみられ、平成27年（2015年）には、高齢化率（高齢者人口割合）が30%を超え、令和42年（2060年）には40%に迫ると予想

#### ●石巻市の公共施設の状況

公共施設の個別施設計画の策定や、統合・廃止等が行われ、その内容を反映し、推計した際の更新費用の総額は3,091億円、年平均額にすると77億円であり、新規整備事業や老朽化対策事業等の実施は困難であることから、既存施設の総量縮減を段階的に進めていかななくてはならない。

#### ●財政収支見通し

歳入は、地方税が震災前の水準に回復する見通しとなっているが、地方交付税において、震災前の水準に回復しない見通しで、非常に厳しい状況である。また、歳出は、社会保障費が増加するほか、公共施設の老朽化対策等により高い水準で維持する一方、施設整備関連経費の財源不足が深刻化することが予想される。



### (3) 陸上競技場を取り巻く現状

#### ● 県内の陸上競技場の整備状況

- ▶ 県内には、日本陸上競技連盟が認定する公設陸上競技場が7施設
- ▶ 石巻圏域に公認陸上競技場がなくなり、石巻地区の大会は仙台市や利府町等の競技場を使用
- ▶ 宮城県北部沿岸地域にも公認の陸上競技場が無いため、気仙沼市や南三陸町は県外の陸上競技場を使用

- ※第1種（1施設）
- 第3種（5施設）
- 第4種（1施設）



#### ● 市内の陸上競技場の整備状況

名称	所在地	トラック舗装材	1 周の距離	その他
追波川河川運動公園	石巻市小船越字山畑	土質	400m	非公認
石巻専修大学	石巻市南境新水戸	全天候	400m	非公認

※全天候型トラック・・・いかなる天候のもとでも常に同じような条件で競技できるトラックのことで、舗装の素材はゴムシートやウレタンなどがある。

### (4) 施設整備に向けた課題

- 本市を取り巻く状況や「スポーツ関係団体へのアンケート調査」、「石巻市陸上競技場基本構想策定に関する懇談会」及び「陸上競技場の整備を推進する議員連盟役員会」などの意見を踏まえ、陸上競技場を整備するうえでの課題は以下のとおり
  - ① 宮城県北部沿岸地域に公認の陸上競技場がなく、第3種公認陸上競技場の環境整備が求められている。
  - ② 各種県大会などの一定水準の大会を開催可能とするため、8レーン以上コースの整備が必要
  - ③ 投てきや跳躍等の種目を含めた大会開催可能な整備の推進とサブグラウンドの整備も検討が必要
  - ④ 交流人口の拡大を図るため、大会開催やスポーツツーリズムなどの交流イベントを開催可能な環境整備が必要
  - ⑤ 大会の開催だけではなく、運動公園の機能を活用しながらスポーツ合宿等の誘致を進めやすい環境整備が必要
  - ⑥ 総合運動公園全体の機能を見据え、すべての市民が利用しやすい施設としての環境整備が必要
  - ⑦ 高齢化社会への対応として健康寿命の延伸に配慮した環境整備が必要
  - ⑧ 防災公園としての位置づけを踏まえ、災害時に必要な機能の整備が必要
  - ⑨ 陸上競技場の建設及び維持管理にあたっては、身の丈にあった健全で持続可能な運営が求められている。
  - ⑩ 限られた財政資源のもとで、単なるハコモノにとどまることなく、多面的な機能を有し、まちづくりに資する施策が求められている。

### (5) 陸上競技場整備の基本理念・目指すべき方向・基本方針

- (4)の課題から、石巻市総合運動公園陸上競技場については、財政規模に見合った施設としながら、【基本理念】を「さまざまなスポーツの基本である陸上競技を幼少から身近に体験し、スポーツ振興を通じて、子どもたちの未来を紡ぎ、スポーツ全体の向上と市民の健康増進に寄与する。」として、基本となる考え方を示した4つの【目指すべき方向】と、それに基づいた【整備基本方針】を定めます。

～スポーツのまち石巻～

陸上競技場整備の基本理念・目指すべき方向・基本方針

【基本理念】

さまざまなスポーツの基本である陸上競技を幼少から身近に体験し、スポーツ振興を通じて、子どもたちの未来を紡ぎ、スポーツ全体の向上と市民の健康増進に寄与する。

目指すべき方向

- 1 子どもから高齢者、障がい者等すべての市民が気軽に利用できる場としての整備を目指します。
- 2 宮城県北部沿岸地域のアスリート育成・強化の拠点としての整備を目指します。
- 3 スポーツを通じた交流のまちづくりに資する環境整備を目指します。
- 4 防災機能の充実と安全・安心のまちづくりに寄与する施設整備を目指します。

〈整備基本方針〉

- 身近にスポーツ活動を楽しみ心と体の健康を育む陸上競技場を整備します。
- 宮城県北部沿岸地域での大会開催や日常的な練習会場として活用可能な第3種公認の陸上競技場を整備します。
- 関係機関と連携し、スポーツツーリズムやスポーツ合宿の誘致に対応した陸上競技場を整備します。
- 防災公園として防災機能を補完、強化した陸上競技場を整備します。

基本方針

〈基本方針項目〉

- 1-1 子どもをはじめ、すべての市民が楽しめる環境を整備
- 1-2 健康増進のための日常的に利用できる環境を整備
- 1-3 多様な主体におけるスポーツの機会を創出できる環境を整備
- 2-1 宮城県北部沿岸地域における大会が可能な機能を確保
- 2-2 アスリートの強化に向けた陸上競技場の機能を確保
- 2-3 運動公園のメリットを活かしたアスリート育成環境を整備
- 3-1 スポーツイベント・合宿の誘致
- 3-2 まちぐるみでのサポート
- 3-3 まちとの交流機会の提供
- 3-4 スポーツコミッションとの連携
- 4-1 陸上競技場を「避難場所」「物資の集積・集配拠点」としての活用を考慮した整備

3 建設費用

●概算費用について

詳細な費用については、今後策定する「基本計画」で検討いたしますが、他市等の公認陸上競技場建設にかかる費用については、以下のとおりとなっています。

なお、建設金額については、建設当時の価格を参考として記載しています。

施設名称	規模	所在地	完成年度	建築面積	建設金額
北上総合運動公園	クラス2	岩手県北上市相去町	平成9年度	5,570.00 m <sup>2</sup>	10,126,608 千円
宮城スタジアム	第1種公認	宮城県宮城郡利府町	平成11年度	36,684.7 m <sup>2</sup>	27,000,000 千円
一関運動公園陸上競技場	第2種公認	岩手県一関市	平成7年度	1,458.98 m <sup>2</sup>	875,400 千円
豊橋市陸上競技場	第3種公認	愛知県豊橋市	平成29年度	1,524.24 m <sup>2</sup>	1,345,212 千円
朝宮公園陸上競技場	第3種公認	愛知県春日井市	平成29年度	2,641.52 m <sup>2</sup>	1,150,000 千円
南部健康運動公園陸上競技場	第3種公認	徳島県阿南市	令和2年度	詳細不明	1,900,000 千円

4 整備スケジュール

●整備スケジュールのイメージ

従来手法とPFI手法スケジュールによる建設工期の参考比較イメージ

年次	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
従来手法	基本計画策定	設計発注～基本設計	実施設計～工事入札	建設工事			供用開始
PFI手法等	基本計画策定～事業者募集準備	PFI可能性導入調査～事業者募集開始 事業者選定 PFI事業契約		設計(基本) + (実施)	建設工事		供用開始

※PFI可能性導入調査については、可能な限り、早急に基本計画策定と並行しながら業務を実施していく。設計・建設は、一定の工期短縮の可能性がある。